

居場所を提供する子ども食堂

シリーズ～まちの中の達人～



池袋本町郵便局の隣、もとは囲碁教室だった場所で活動しているほんちょこ食堂をお訪ねしました。

この子ども食堂は、池袋本町公園でプレーパークをやっているNPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークが行っています。池袋本町郵便局の名取さんのご厚意で場所をお借りし、子ども夢基金の助成を受け、いろいろな団体から食材などの寄付も受けるなど、多くの人に支えられながら活動しています。スタッフは池袋本町にお住まいの方11名がボランティアで参加。最年少は高校生です。

「ほんちょこ」とは本町でちょこっとという意味。シングルや子どもの居場所をつくりたいとの思いで行われています。毎回30～40人の方が来られ、カレーライスに舌鼓を打ちながら、スタッフや参加者どうしのよもやま話に花が咲きます。スタッフの皆さんも参加者も、とても楽しそうなのが印象的です。一人で、あるいは親子だけで食事をするのではなく、みんなで一緒に食事し、いろいろな話ができる。自分も参加することによる人と人の支えあいがあるのではないかと感じる事ができる食堂です。

食堂の隣の車庫にはコタツがおかれ、食事の後にくつろぐこともできます。道路に開かれたコタツ。木枯らしの冷たさを感じさせないホッコリとした居場所になっています。



池袋本町

まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho Machizukuri News No.64

2018年3月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http://池袋本町.net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel 03-3981-1464
fax 03-3980-5135
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

募集してます ● まちづくり用地

池袋本町地区では、さまざまなまちづくり事業が進められています。道路や公園等を整備しようとする、土地をお譲りいただくことが必要となります。その時、移転が必要となる場合もありますが、地区内に代替地があれば移転を考えてもよいという方もいらっしゃいます。

まちづくり用地とは、地区内のまちづくりのために使う土地のことです。そのまま公園などに利用することもあれば、移転用の代替地として活用することもあります。豊島区ではまちづくり用地として売却をしてもよいという方を募集しています。また、UR都市機構では木密エリアに限定して買い取り事業をはじめました。土地の売却をお考えの方は、まずは区にご相談ください。

会員募集中
新しいまちづくりの会で一緒にまちづくりをしませんか。参加をご希望の方は事務局まで

UR都市機構による木密エリア不燃化促進事業

去る平成29年11月1日に豊島区とUR都市機構との間で、池袋本町・上池袋地区における不燃化促進に関する業務協定を締結しました。今後UR都市機構は、不燃化特区内の不燃化を促進することを目的に土地の買い取りを行います。

■事業利用のメリット

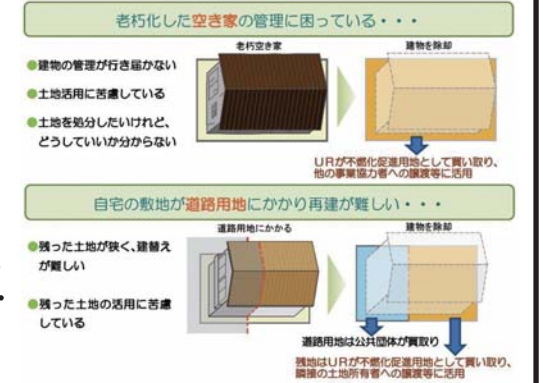
- ・譲渡所得に対して、税の特別控除が適用できる可能性があります。
- ・東京都や豊島区の支援制度（建物除却・建替えの助成や固定資産税・都市計画税の減免）の活用についてのアドバイスも行います。

■買い取り条件など

- ・買い取りエリアは池袋本町・上池袋地区不燃化特区内となります。（池袋本町1～4丁目全域、上池袋2丁目1～4番・8～45番、上池袋3～4丁目全域）
- ・買い取りは平成32年度（平成33年3月）までとなります。
- ・買い取りに際しては、建物の除却、土地の測量等を売主様のご負担で実施していただきます。建物の除却については、助成制度利用の可能性がります。

通常の宅地だけでなく、「老朽化した空き家の管理に苦勞しており土地を整理したい」、「自宅の敷地が道路用地にかけ残り残地を売却したい」、などありましたらお気軽にご相談ください。

窓口：UR都市機構 東日本都市再生本部 密集市街地整備部 03-5323-0351(平日 10:00～17:00)



再発見 「池袋東貝塚」

池袋本町三丁目の工事現場から、縄文時代の遺跡が再発見されました。この遺跡は明治29年に豊島区在住の考古学者、蒔田鎗次郎がこの地域で貝を発見したことにより存在が知られるようになったもので、この地に暮らした縄文人の生活を研究する上で、きわめて貴重な遺跡と言われていたものです。しかし、その後の宅地化によっていつしか遺跡は姿を消し、区がたびたび行った発掘調査などにおいても発見されず、専門家からも幻の貝塚と言われていたものです。

発掘調査の結果、地表から20cmときわめて浅い位置から、縄文後期（およそ4500～3300年前）の貝塚が非常に良好な状態で発見され、貝や獣骨、魚骨、土器などが出土しました。こ

の発掘調査は、遺跡全体のごく一部を調査したにすぎませんが、長く不明な点が多いままだった池袋東貝塚の実態に光をあてる、学術的にも貴重な成果となりました。関東地方の他の縄文時代後期の集落址との共通点が多く、それを参考に推定すると本地区の北、西、東の三方向に向かって、直径100メートル以上の範囲に及ぶ集落があった可能性があるとのこと。



つれづれに一言
NPO法人豊島WAKUWAKUネットワーク 山本道子
池袋本町公園にあるプレーパークに遊びに来た中学生から、家族と一緒に食事をするのは「きもち」という言葉を聞いてしまったWAKUWAKUの理事長は、これは何とかしてはと始めたのが、要町にある『あさやけ子ども食堂』でした。以来、子ども学習支援、夜の児童館等々子どもたちの居場所づくりに毎日取り組んでいます。
私も親子ほど年齢の違う理事長に促され、池袋本町に『ほんちょこ食堂』を開きました。月に二回カレー専門の子ども食堂です。学校での昼の給食がカレーでも、その夜のご飯はカレーで良いという子どもたちの願いを受け、毎回カレーを作って、五月で開店してからで丸二年が経とうとしています。
最近では食事をするというよりも、改めて居場所なんだと気づかせてくれました。
中には仕事帰りのママを待つ子ども、二人家族ではなかなかカレーは作らないのでここで食べたいという親子。それぞれの家庭環境の中でほんのちよこっと、ホッとする場所があり、コミュニケーションが取れば若いママたちも安心してくれる。そんな環境を作り提供したいと思いました。
しかし、本来ほんちょこのスタッフの目標は子どもから高齢者・障害者を含めた誰でもOKですよ。という食堂を作りたいと願っています。近くに建設される素晴らしい老人ホームのコミュニティひろばをほんのちよこっとお借りできればと、先々思っている頃です。